

～地域ぐるみで行う鳥獣被害対策支援事業～

(重点支援地区) 川西町 朴沢地区〔令和3年度実施地区〕

■実施体制

- 実施主体：地域住民
- アドバイザー：古谷 益朗 氏（ネイチャーステーション代表）
- 協力者：置賜総合支庁農業振興課、川西町

■地区のプロフィール

- 地区内の戸数：53戸 うち農家数約31戸
- 主な被害作物：水稲、そば、WCS、じゃがいも等
農地の掘り起こし
- 主な加害鳥獣：イノシシ、サル、クマ、カモシカ



1. 取組のきっかけ

- クマやサルの被害は以前から発生しており、特にサルは人に慣れていて、音(花火)等で追払いしようとしてもあまり効果がない。
- 近年はイノシシの被害が急増しており、箱わなも設置しているが、劇的な効果はない。また、カモシカの錯誤捕獲のリスクがあるため、くくりわなは積極的に設置できない。そこで、地域で一体的にイノシシ対策に取り組みたいと考え、本事業を実施することとした。

2. 取組の内容

- 事前打合せ(令和3年7月1日)
研修会に先立ち、地区住民とアドバイザーで集まり、被害状況の確認や意見交換を行い、また、被害が出ている現場も確認した。
- 第1回研修会(令和3年8月11日)
アドバイザーの古谷講師による講義「共通認識で守る！これからの鳥獣害対策」を実施した。
講師によれば、鳥獣被害対策に関する正しい知識・事実は意外に流布していない。正しい知識と情報を共有し、捕獲だけに頼らず、「地域をどうするのか、どう守るのか」の視点が大事とのこと。
- 第2回研修会(令和3年10月6日)
被害状況マップを確認するとともに、集落環境点検を行い、イノシシ出現箇所を確認した。また、次回の電気柵設置研修の実施箇所も決定した。
- 第3回研修会(令和3年10月26日)
電気柵設置の実習を行い、侵入防止ネット「かたまったくん」をWCSの周囲(約60m)に設置した。
- 第4回研修会(令和3年12月7日)
本事業の取組に対する総括と意見交換を実施。



講義(R3.8.11)



電気柵設置(R3.10.26)

3. 課題と今後の展望

- 鳥獣対策は「自分たちで！」の気持ちを忘れず、田畑に隣接する山の手入れであったり、場合によっては鳥獣の駆除であったり関係団体の協力を得ながら行っていく。
- 地域住民の協力のもとに出没マップを作成するほか、補助事業を活用して電気柵設置の普及推進を図るなど、自立した地域ぐるみの活動ができるようにしていきたい。